

急速に高齢化が進んでいる高知県で、低侵襲手術や縮小手術を推進し、患者のQOLの維持に力を注ぐ高知大学医学部呼吸器外科学講座。講座を率いる田村昌也教授は、手術の腕だけでなく研究力も備えた「二刀流」の呼吸器外科医を育成し、県下全域に輩出することを目指している。

#### ―講座の特徴について―

高知県は全国に比べて高齢化率が非常に高いため、当講座では低侵襲手術に特に力を入れていきます。手術支援ロボットを導入し胸腔鏡手術を実施することで、患者さんの体への負担を軽減することができま

す。今後は、さらなる低侵襲手術の実践を目指し、穴を一つだけ開けて行う単孔式手術にも取り組ん

でいきます。私が前任地の金沢大学で取り組んでいたことを継続させ、低侵襲手術の術式やそれに使用する細径鉗子などのデバイスの開発、臨床応用も行っていきたいと思っています。最先端の外科手術を患者さんに提供するとともに、さらに高みを目指していきます。

当科がメインとする肺がんの手術は、かつては肺葉ごと切除していましたが、最近の一部の肺がんで肺を大きく取らずになるべく正常な肺を温存する、縮小手術が積極的に行われています。肺機能を温存して患者さんのQOLに資する手術で、がんの取り残しがないよう、当大学の光線医療センターと共同で開発中の診断ツールの開発とセツトで推進していきたいと思っています。

### 講座クロズアップ

## 高知大学医学部 呼吸器外科学講座 手術も研究も担う「二刀流」の呼吸器外科医を育てる



たむら まさや  
田村 昌也 教授

1996年金沢大学医学部卒業。オーストリア・ウィーン大学留学、金沢大学附属病院呼吸器外科講師・臨床准教授などを経て、2022年から現職。

#### ―外科学全体の講座再編後の現状について―

当大学の外科学の講座は2021年、従来のナインバー外科から消化器心臓血管、呼吸器などの臓器別に再編されました。診療面では、各科の垣根を取り払って「統合外科」として運営しています。互いに相談して助け合いながら手術を行う連携がスムーズに取れるようになり、若手医師のトレーニングも効率良くできるようになりました。

23年6月からは「Kochike Surgery」という名称で、大学だけでなく市中病院も含めて外科医療の発展や相互の学識向上を目的とする会が立ち上がりました。県全体で外科を担う若手医師を育てようという一体感が生まれつつあります。

#### ―人材育成の柱は―

手術ができ、研究もできる「Academic Surgeon」を育成することです。外科医が手術力を磨くことは当たり前ですが、同時に研究マインドを持ち、最新の知見をエビデンスとして発信することも必要です。当講座のスタッフには、手術だけ、研究だけでは駄目で、両立させる「二刀流」の呼吸器外科医を目指してもらいたいと伝

えています。

講座運営で心掛けているのは、スタッフそれぞれの個性や適性を見極め、本人の希望も勘案しながらやる気を引き出すようにすることです。チームワークを大切に、チームとして最大の成果が得られるような組織を目指しています。

#### ―今後の目標と、実現のために解決すべき課題は―

当講座の究極的な目標は、高知県民の方々に全国レベルで最良の医療を提供することです。そして、育成した呼吸器外科医が県全体、さらには他地域でも活躍することになること。並行して、全国に誇れる研究の柱を育てたいと考えています。

目標達成のためには、まずは医療を提供する私たちが幸せで充実していることが重要です。スタッフ一人一人が夢を持てる、そして毎日職場に行くのが楽しみになるような環境を整えていきたいと思っています。

幸い、最近では県外出身の学生も卒業後に当大学に残ってくれるようになっていきます。患者さんにより選ばれ、学生の手本にもなるよう、生き生きと能動的に仕事をしている姿を私自身もスタッフたちも、見せていきたいと思っています。